

第3の居場所「mikke」の取り組みと概要



一般社団法人 zutto

1.mikkeの目的

本事業は、不登校や学校にしんどさを感じている子ども達に対し、家庭や学校以外の「第三の居場所」を提供することで、安心して過ごせる環境を整備し、地域における子どもの健全育成を推進することを目的としている。

あわせて、保護者に対しても、相談や交流の機会を設け、家庭内における子育ての不安や孤立を軽減し、子どもの成長を地域全体で支える仕組みづくりを進めることを目的としている。

（子どもを対象とした具体的な内容）

○学校に戻すことだけを目指とするのではなく、安心できる場所で心の回復と社会的な成長を支える。

○教員免許や社会福祉士、保育士、看護師、相談支援専門員等、様々な資格を持ったスタッフがそれぞれのスキルと知識を活かしながら広い視野で不登校を捉え、地域の教育・福祉・医療と連携し、一人ひとりに合った社会復帰へのフォローを考えていく。

○不登校の期間に孤立感や不安感から精神的なバランスを崩すことを防ぐために子どもの世界・視野が広がるような「人」や「こと」と出会える環境を提供する。

○不登校期間の学習の取りこぼしが進学や再登校へ不利益を及ぼすことのないように興味関心を持ったことを探究したり、教科学習の補填をしたりしながら学びの保証が出来る場所を地域に増やす。

（保護者を対象とした具体的な内容）

○子どもが不登校になることで、子育てへの不安を感じたり、孤立感を感じたりする事のないように、複雑な思いを共有したり、成長を認めあったりできる仲間づくりの場を設け心穏やかに安心して子育てができるようにする。

○子どもの進路や今後の生活について安心して考えられるように、進路についての相談や情報を共有する。

○子どもの個別の状況に応じて専門機関（学校、医療機関、福祉事業所など）との接点を作り、必要な支援につながるようにする。

2.昨年までの具体的な取り組みについて

①mikke（安心して自由に過ごせる居場所）

内容：（子ども）自分の好きなことややってみたいことを楽しむ

（保護者）悩みや心配事の相談や情報共有、お茶を飲みながらリフレッシュする。

子どもたちはその日の気分や状況に応じて自分の過ごし方を選び過ごす。スタッフと一緒にオンラインゲームをしたり、みんなでボードゲームを楽しんだりしている。また1人でイラストを書いたり本を読んだりしている子もいる。それぞれがmikkeという空間を自分なりの楽しみ方で共有している。

普段のmikkeの様子



保護者は子どもが過ごしている様子を見守りながら、保護者同士やスタッフと日頃の悩みや心配事を話したり、不登校や子育てに関する様々な情報を共有したりしている。また、お茶を飲みながら楽しい会話をし、リフレッシュの時間にもなっている。



- ②mikke online（ゲームを通じて交流するオンラインの居場所）
 内容：ゲームスタッフ主導のもと、ゲームが好きな子たちがオンライン上に集まってゲームで交流をする。
 主に、マイクラフト、スプラトゥーン、大乱闘スマッシュブラザーズ、マリオカートなどをyoutubeで配信。
 実際にゲームをするだけでなく、見るだけの参加やチャットだけの参加もできるようにしている。



R7.4月神戸新聞掲載

外出することが難しいけど、誰かと一緒にゲームをしたい、ゲームが好きな子とつながりたい子などが参加している。オンラインだけで完結することなく、ここで交流を深めた子たちはmikkeの居場所で実際に会ってゲームをしたり遊んだりし外出の目的につながる場合もある。あわせて、定期的にオフライン大会を実施し、好きなことをみんなで思い切りやる楽しさやゲームを通じて得られる達成感や満足感、仲間とのつながりを感じている。



R6.しそふオンライン大会



R7.しそふオンライン大会



R7.たつのオンライン大会

③mikke study (好きなことややってみたいことを探究する学びの居場所)

内容：前半は学校の宿題や自分が取り組みたい内容を学習し、後半は興味・関心があるものをみんなで一緒に「知る」「作る」「味わう」「楽しむ」学びと探究の居場所。



シーリングスタンプ作り



シールビーズ作り



ハンバーガー作り



夜カフェスイーツ作り

身近な大人の人から仕事の話を聞いたり体験をしたりし、様々な職業があることを知り、自分の将来について考えるきっかけづくりをする「しごと探究シリーズ」



消防士さんの話と防災食づくり



理学療法士の話と簡単なストレッチ体験



大学生と英会話レッスン

仕事だけでなく、大人の好きなことや得意なことを伝え、一緒に体験する「大人の好きシリーズ」地域の資源を活用することで興味・関心を広げ、様々なことに挑戦しようとする意欲を高めるきっかけとなっている。



あまごの塩焼き



夜の昆虫採集



釣り体験

③mikke personal（訪問型支援）

内容：外出が難しい子どもに対し、自宅に訪問し、学習やその子のやってみたいことのサポートを行う。

これまで行ってきた内容

- ・高校受験に向けての学習支援
- ・苦手な科目の学習支援
- ・クッキングやハンドメイドの補助
- ・一緒にゲームをしたりアニメや漫画を見たりする
- ・動画の編集やスマホの使い方などのアドバイスなど



パン作り



レシピ本作り

④mikke メタバース

内容：インターネット上のバーチャル空間を活用し、自分たちの作りたい居場所を自分たちで作り、その空間を楽しむ。

参加者について

- ・以前からmikkeに参加している子
- ・メタバースの告知を見て初めて参加した子
- ・たつの市外からの参加
- ・mikkeに参加したいけど外出が難しい子（zoomにて参加）
- ・その他、メタバース作りに参加したい、メタバースのことを詳しく聞いてみたいと事前にmikkeに参加した子

活動の様子

- ・自分の作りたい居場所を自由に表現し、時間いっぱい楽しむ姿が見られた。
- ・実際にメタバース空間に入り、チャットやリアクションで交流した際には、初めて出会う子同士でも「ありがとう」「すごいね」と言葉をかけあったり、みんなで集まって踊ったりゲームを楽しんだりした。
- ・アバター同士の交流でも1つの空間を共有することやコミュニケーションに臨場感があった
- ・活動後も仮で作ったメタバースに入っている子がおり、人とつながることの嬉しさを感じていたり次の活動を楽しみにしていたりする様子が伺えた。
- ・いくつかのメタバースプラットフォームを活用しながら、どんな居場所にしたいか、そこで何をしたいかそれぞれが想像を膨らませながら空間を作成していた。
- ・毎回zoomで参加している子にとってメタバース作りが楽しみなようで、「もっとしたい」と意欲を見せていた。



作りたい居場所をブロックで表現



実際に既存のメタバース空間を体験



mikkeの新しい居場所
「mikke メタバース」
一緒につくってみませんか？

- ・メタバースに興味がある
- ・自分たちの居場所をつくってみたい
- ・好きなことや得意なことを知ってもらいたい
- ・ゲームづくりやプログラミングに興味がある
- ・みんなで話したり考えたりしたい

小中高生
大募集

告知のチラシ

⑤ イベント型mikke

内容：宿泊キャンプやカヌー体験をはじめ、ダンスやヨガ、ハンドメイドなど複数の体験活動を行う特別企画

宿泊キャンプ R7 7月



花火



ヨガ



アート活動

イベント R7 11月



全体の様子



ダンス



ミニシール帳づくり

イベント R7 3月



保護者のサロンコーナー



アクセサリー作り



オフライン大会

子どもたちの活動は、途中で止めたり急かしたりしないように十分な時間を確保している。
また、普段1人ではできないようなことや子どもたちの興味・関心が高いものを選び、十分に楽しめることを意識している。
また、複数の中から自分がやってみたいことだけを選び、「できた」という成功体験を積み重ねていけるようにしている。同時に保護者のサロンコーナーを設け、子どもの様子を見守りながら、保護者同士の交流を深める機会を作っている。

⑥講演活動

内容：mikkeの活動内容や不登校支援の実践、第三の居場所づくりの意義を広く周知することや理解を深めることを目的とした講演活動の実施



R6 10月 穴栗市防災センター



R6 10月 太子町保健福祉会館



R6 11月 姫路大学



R6 12月 たつの市長との対話



R6 12月 相生市教育支援センター



R7 1月 たつの市役所



R7 3月 穴栗市波賀市民協働センター



R6 6月 兵庫県西播磨県民局



R7 10月 穴栗市防災センター

3. 事業実施によって得られた効果

- 小学校や中学校と連携を図り長期登校していない子どもの様子、情報の共有が出来ている。また、支援会議等に出席し子どもや保護者への今後の関わり方を様々な立場から一緒に考えることができています。
- 学校や教育支援センターに行きにくい子どもがmikkeで同年代の子どもと関わりながら協働する楽しさや喜びを感じたり、学習したりする機会を持つことができています。
- 登校を再開した子どもも多数いる。
- mikkeには不登校を経験し様々な進路に進まれた方がおり、経験者が進学相談に乗ったり、スタッフと一緒にオープンスクールに行ったりし、進学を決めた子どもがいる。
- mikkeで出会った大人に憧れ、夢が見つかった。大学受験に挑んだ子がこれまでに3名いた。➡心理士・保育士・社会福祉士
- 学校には登校できているものの、教室に入れなかったり、集団の中でしんどさを感じている子が「mikkeという楽しみがあるから学校生活を頑張ることができている。」とメッセージをくれ、mikkeが励みになっていることを感じた。
- 外出が難しい子がmikkeの様子をSNSで見て「行ってみたい」と、数年ぶりに家から出ることができた。初めは1人で過ごしていたが次第に人と関わるようになり、一緒に遊んだり会話を楽しむようになってきた。
- メタバースの告知を見て初めて参加した子は、mikkeという居場所を初めて知り「こんな場所があったんや」「また来たい」と心を弾ませていたとのこと。（保護者より）メタバース作りの活動が、子どもの外出の目的になったり、やってみたいと意欲を湧かせたりするものになっていることを感じた。
- メタバースに関して、保護者からの問い合わせが多く、子どもと一緒に参加したり参加することに抵抗がある子どもの代わりに参加したりする保護者がおり、関心の高さや前向きな様子が伺えた。
- カヌーや釣りなどの体験活動は、家にいる時間が長い子にとっては体を使って自然に触れ合う良い機会となっている。（保護者より）
- mikkeに相談に来る親子の中には、誰にも相談できずに自傷行為や「死にたい」と口にする子もいる。そういった場合は、すぐに相談支援員や医療機関につなぐことで心身の不調や危機的状況の深刻化を防ぐことにつながっている。
- 様々な大人と関わり、ほめたり認めてもらう経験を積み重ねることで、「自分もできるんだ」と自信や意欲を高めている様子が見られる。
- mikkeで相談に乗ってもらうことで、「何かあった時にはmikkeに行けばいいと思って普段頑張っている」（保護者より）とmikkeが安心材料になっていることを感じた。
- 公式ラインを開設により、保護者が日常的な不安や悩みを気軽に相談、共有することができ、迅速な対応や支援につながっている。
- ゲームを一緒にしたりゲームのことを話せる仲間や大人がいることを子どもがとても喜んでいて、親としてもゲームをしている子どものことを叱ったり否定したりすることが減って気持ちが楽になった。（保護者）

4.事業の沿革

2018年 不登校の親同士が集まり太子町のカフェでお茶会を開く（月1回）

2020年 太子mikkeをスタート(月2回)

2022年 たつのmikkeをスタート（月1回）
mikke onlineをスタート（月1回）

11月 太子町福祉会館にて講演

2023年

5月 あすかホールにて講演

7月 宍粟市ひきこもり講演会にて講演

10月 たつの市長対話広場

11月 一般社団法人zutto設立
第1回mikke オフライン大会開催（宍粟市）

2024年

1月 公式ホームページ開設

2月 第2回mikkeオフライン大会開催(たつの市)

3月 たつの市、認定NPO法人コムサロン21主催の講演会にて講演

4月 mikke studyをスタート（月1回たつの市）
姫路大学学生ボランティア受け入れ

5月 姫路若者サポートステーションにて講演

7月 相生市にて「mikke サマーキャンプ」開催

8月 加西市主催「不登校 ひきこもりフォーラム」にて講演

10月 太子町にて「第1回mikkeおしゃべり会」を開催
宍粟市こころの健康講座にて講演

11月 姫路大学「mikke おしゃべり会」にて講演
訪問型不登校サポート「mikke personal」をスタート

12月 第3回mikkeオフライン大会開催（たつの市）
相生市教育支援センター親の会にて講演

2025年

1月 たつの市にて不登校・ひきこもりフォーラム「みんなミーティング」開催

2月 宍粟市にて高岡病院三木先生とのトークセッション

3月 宍粟市にて「しそうmikke」開催
たつの市立龍野西中学校教職員研修にて講演

4月 兵庫県オンライン居場所委託事業「女性専用オンライン居場所」開始（月1回）
宍粟市にて「しそうmikke」開催

5月 宍粟市にて「しそうmikke」開催

7月 宍粟市にて「mikke サマーキャンプ」開催
たつの市にて「なつやすみっけ」開催

8月 宍粟市にてカヌー体験実施
相生市教職員研修会にて講演
mikkeメタバースプロジェクト開始

10月 宍粟市こころの健康講座にて講演
たつの市にて釣り体験実施

12月 たつの市にて不登校・ひきこもりフォーラム「みんなミーティング」開催（予定）

5. 今後の事業の方向性

事業を行っている地域（兵庫県西播磨）には、「第三の居場所」と言われる子どもが安心して過ごせる居場所が少なく、または十分に整っていない現状がある。実際に、本事業を行っているたつの市だけでなく、近隣の市町や不登校の子どもを抱える保護者からもmikkeの日常的な開催を要望する声が多い。また、不登校の状況や背景は一人ひとり異なり、必要とする支援や居場所の形も様々である。そうした現状を踏まえて、今後は西播磨全体を包括し、それぞれの地域でmikkeを開催していきたい。そして、さらに内容の充実やスタッフの育成にも力を入れながら、多様なニーズに応じた居場所の充実を図り、より多くの子どもが安心して自分らしく過ごすことを目指したい。また、保護者同士の交流から始まったmikkeの原点を大切に、保護者にとっても孤立や孤独感を防ぎ、安心して子育てができる環境づくりを進めていきたい。

そして、学校、行政、福祉機関、地域団体などとの連携を今後も深めていき、子どもと保護者の双方を支える地域ネットワークの構築を進めていきたい。あわせて、mikkeの活動や不登校支援、第三の居場所の意義や理解を広めるための講演をはじめとした啓蒙活動にも力を入れていきたい。

‘(mikkeの支援のあり方)

不登校の子どもたちは、学校に行けないことやみんなと同じようにできないことで、不安や心配、自己否定や罪悪感、孤独感や疎外感など様々な精神的負担を抱えていることが見受けられる。mikkeでは、まずどんな自分でも「居たい場所」「居られる場所」であることを大切に、「心地よさ」や「安心・安全」の確保「自分らしさ」を尊重できる環境づくりや支援の充実を図っていききたい。そして、子どもの成長の根本は「安心・安全」にあること、「安心・安全」があってこそ、次の意欲や自信の過程へとつながるという考えのもと、子どもたちが子どもらしく毎日を笑顔で朗らかに過ごせるように、そして未来に希望を持ち健やかに成長できるように支援をし続けていきたい。

